

名古屋市

名古屋市における精神障害にも対応した 地域包括ケアシステムの構築について

名古屋市では・・・

平成26年度より「知る」をテーマに地域移行・地域定着支援推進のための人材育成を目的とした研修を実施。平成27年度は「考える」、平成28年度は「伝える」、平成29年度は「広める」をテーマとして取り組んでいる。平成30年度からは、名古屋市における精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組み初年度として、「始める」をテーマに、市域全体、ブロック毎、1人ひとりの3層構造における協議の場を設置し重層的な支援体制の構築を目指す。

1 平成30年度の達成目標と現時点での進捗状況

平成30年度の達成目標	現時点での進捗状況
1. 協議の場の設置 年12回	・4ブロック毎に地域支援調整会議の開催 計8回開催(10/4現在)
2. 地域移行支援利用者数(実人数) 80人	実利用人数 20人(北ブロック除く)
3. ピアサポート活用事業利用件数 16件	事業利用件数 3件 ・民生委員に対する出前講座

2 圏域の取組における強みと課題

【特徴(強み)】

平成29年度、保健・医療・福祉関係者によるワーキンググループを開催し、「精神障害者地域移行支援ガイドブック」を作成した。
平成29年度より、市内を4ブロックに分け、ブロック毎に地域移行支援に関する取組みを行っている。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する視点別の認識(取組)	
		行政側	協議の場を設けて、顔の見える関係が必要
保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置	市域全体・ブロック毎・一人ひとりにおけるネットワークを構築するため、市域全体及びブロック毎に保健・医療・福祉関係者による協議の場を設置する	医療側	院内のスタッフへの普及・人材育成
		事業者側	地域援助事業者の不足
		関係機関・住民等	—
		行政側	ピアサポーターの養成研修の開催 ピアサポート活用事業の要綱改正
ピアサポーターの養成と活用	精神障害者地域移行ピアサポーターを養成し、精神科病院長期入院者に対して、地域生活の体験談を語る等動機づけ支援を行う。	医療側	—
		事業者側	ピアサポート活用事業の受託
		関係機関・住民等	—
		行政側	ピアサポーターの養成研修の開催 ピアサポート活用事業の要綱改正

課題解決の達成度を測る指標	指標の設定理由	現状値 (第1回会議時)	現状値 (今回)	目標値(H30)
①協議の場の設置	保健・医療・福祉関係者の連携強化	0回/年	8回/年	12回/年
②地域移行支援利用者数(実人数)	地域移行支援利用者数が少ないため	40人	20人	80人
③ピアサポート活用事業利用件数	ピアサポーターの活用が進んでいないため	0件	3件	16件

※指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。

3 病院（医療機関）との連携状況

- 地域支援ブロック調整会議に市内全ての精神科医療機関が参加。
- 市内16病院＋市外1病院のうち12病院において、地域移行支援制度に関する説明会を病院内で開催。（地域移行支援ガイドブックの活用）
- 病院内の人材育成研修の一つとして研修会の開催
- 地域移行強化病棟において、患者向け説明会及び個別相談会の実施
- 病院から事例を提供してもらい、地域支援ブロック調整会議において事例検討会の実施
- 病院内家族会の勉強会において説明会実施

4 現時点での課題・悩み

- 精神科医療機関の地域移行支援制度に関する理解不足
- 地域援助者の疾病や障害特性に対する理解不足
- 地域援助者のフォロー体制の整備
- 地域援助事業所及び地域援助者の不足
- 本人への動機づけ支援（社会資源の見学方法等）
- 居住地の確保
- 65歳以上の高齢の長期入院者に対する支援（高齢分野との連携）
- 精神障害者ピアサポーターの養成と活用

1 平成30年度の達成目標と現時点での進捗状況

平成30年度の達成目標	現時点での進捗状況
1. 地域資源の現状を確認する。	一般相談支援事業所と意見交換会を実施し、事業所の強み・課題、地域移行支援に関する意見交換を行った。第2回の意見交換会を開催予定。
2. 地域移行支援を少しでも利用しやすくする。 地域移行支援の支給決定者数12人/年	H30年4月～H30年9月6日時点で6人の支給決定。 支援中のケースから課題の確認を進めていく。
3. 支援者の人材育成。 地域援助事業者、医療機関職員に対して勉強会・研修会の実施。5回/年	ブロック内の医療機関4か所に地域移行支援の説明会を実施した。10月10日には院内での勉強会を実施予定。実行委員会で研修会の企画を行う予定。

2 圏域の取組における強みと課題

【特徴(強み)】

- 圏域の医療機関がブロック調整会議に参加している
- 行政と地域支援機関と顔の見える関係が築けている

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する視点別の認識(取組)			
●地域援助者、医療機関関係者に地域移行支援制度について周知・理解を図る	圏域の医療機関に対し、ケースワーカーを窓口として院内での説明会・勉強会の実施について相談を行い、基幹支援センター、保健センター、市役所が協力して実施する。 地域援助事業者に対し研修会を開催する	行政側	医療機関と地域支援機関との連絡調整	医療側	院内での調整
●実際のケース支援と地域支援事業者の育成・フォロー	保健センター、基幹支援センター、医療機関との間で対象者の把握と選別を行い、実際の支援を行う。一般相談支援事業所へのフォロー体制を考え、実際の支援に取り組んでもらう。	行政側	地域援助者の育成・フォロー体制の構築	医療側	対象者の選別
		事業者側	医療機関との連携、研修会に参加してスキル向上を図る	関係機関・住民等	
		行政側	地域援助者の育成・フォロー体制の構築	医療側	対象者の選別
		事業者側	関係機関と協力して実際の支援を行う	関係機関・住民等	
課題解決の達成度を測る指標	指標の設定理由	現状値 (第1回会議時)	現状値 (今回)	目標値(H30)	
①医療機関への説明会	医療機関に周知・理解を図る	0回	4回	5回/年	
②地域移行支援の支給決定者数	地域移行支援の利用者数を把握する	—	6件	12件	
③地域支援事業者向けの研修会	人材育成・フォロー体制を考える	0回	0回	1回/年	

3 病院（医療機関）との連携状況

- 地域支援東ブロック調整会議に出席してもらい意見を聞いている。
- 地域移行支援ガイドブックの説明会、勉強会を実施した際の質疑応答やアンケートにて課題について意見をもらう。
- 会議の事前調整のために医療機関の担当者に相談し、意見をもらう。
- 個別のケース支援での連携・連絡調整を行っている。

4 現時点での課題・悩み

【課題・悩み】

- 地域援助事業者の不足、スキルの向上
- ケース支援の中で医療機関、地域との情報共有・リスク管理に課題がある
- 医療機関から地域へ相談するタイミング
- 居住地の確保
- 入院中より退院後の生活の方が経済的負担が大きい
- 本人への動機づけ支援
- 65歳以上の長期入院者への支援
- 会議参加メンバーの活動状況の共有方法

【質問】

- 医療機関職員、地域援助事業者、行政機関職員が参加する研修会の内容について
- 地域移行支援に関する普及啓発用の映像資料を作成しているか

1 平成30年度の達成目標と現時点での進捗状況

平成30年度の達成目標	現時点での進捗状況
1. 地域移行支援利用者の決定者数 20件/年	12件/年。 その他に申請中が4件。
2. 病院にて地域移行支援の説明会 4回/年	5回/年。 5月12日、松蔭病院 地域移行機能強化病棟。 6月11日、北林病院 精神保健福祉課。 8月23日、北林病院 家族会。 9月27日、北林病院 院内説明会(医師、看護師、作業療法士、臨床心理士向け)。 10月11日(予定)、松蔭病院 地域移行機能強化病棟。
3. 病院にて個別相談会の実施 3回/年	1回/年。 5月12日、松蔭病院 地域移行機能強化病棟。 10月11日(予定)、松蔭病院 地域移行機能強化病棟。

2 圏域の取組における強みと課題

【特徴(強み)】

- ①地域移行機能強化病棟及び精神科救急病棟を有している病院、精神科急性期治療病棟を有している病院がある。
 ②地域移行機能強化病棟に基幹センターが入り、地域移行支援の説明会や病院、相談支援事業所等と勉強会を行っている。
 ③現在、地域移行支援の病棟説明等を行っていない病院についても、地域移行支援事業所との連携に前向きな姿勢がある。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する視点別の認識(取組)		
現在、2区の基幹センターが、地域移行機能強化病棟と連携を図っているが、病棟にまだ入れていない病院がある。 また、基幹センター、保健センター間に取組みの差がある。	①ブロック内での取組みを横展していくために、2区の基幹センターの取組みを保健センター、基幹センターと共有する。 ②2区の基幹センターの取組みを、病院の特性に合わせてその他の病院にも行う。 ②事業所が病院へ顔を出す機会を設け、退院支援の相談をしやすい関係を築く。	行政側	医療と基幹センターの連携を促す。	
		医療側	保健センター、事業者が支援できる範囲を知りたい。	
		事業者側	精神障害の特性を理解し、連携を図る。	
		関係機関・住民等	—	
地域支援事業者の育成	研修等を開催し、一般事業所を増やし、指定を受けているが活動を行っていない事業所に対し活動を促す。	行政側	基幹センターとともに、フォローアップを行う。	
		医療側	地域を育てる視点で連携を図る。	
		事業者側	精神障害の特性を理解し、連携を図る。	
		関係機関・住民等	—	
課題解決の達成度を測る指標	指標の設定理由	現状値 (第1回会議時)	現状値 (今回)	目標値 (H30)
①地域移行支援利用者の決定者数	地域移行支援の課題、有用性を検討する。	—	12件/年	20件/年
②病院にて地域移行支援の説明会	患者さん、病院、家族へ制度の周知ができる。	1回/年	5回/年	4回/年
③病院にて個別相談会の実施	患者さんのニーズ、思いを把握できる。	1回/年	1回/年	3回/年

※指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。

3 病院（医療機関）との連携状況

- 措置入院者の退院後支援計画における合議体の参加等を通じ、地域移行支援の制度説明を行い、医療機関との連携を深めている。
- ブロック調整会議や、研修実施の事前打ち合わせを通じて連携を深めている。
- 院内説明会を実施し、共生社会の実現に向けた地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みの説明を行っている。
また、説明会についてのアンケートを行い、病院の考えを聞いている。
- 地域の社会資源を見学するツールがあると良いとの意見があった。

4 現時点での課題・悩み

【課題】

- 一般相談支援事業所の指定を受けている事業所が少ない
- ピアサポーターの養成
- 65歳以上の入院患者について、高齢者機関との連携について
- 居住の場の確保
- 入院患者が社会資源を見学できる仕組みがない

【悩み】

- 地域移行は包括ケアシステムの中の一つの取り組みであり検討事項であるが、地域を考えた際、どのような議題をブロック調整会議で話し合う必要があるか。
- 地域移行支援利用者の進捗状況や再入院率をどのように把握しているか。当ブロックでは、地域移行支援利用者の進捗状況の把握シートを作成し、情報把握をはじめめる予定。
- 一般相談支援事業所が増えるような促しを、どのように行う必要があるか。

1 平成30年度の達成目標と現時点での進捗状況

平成30年度の達成目標	現時点での進捗状況
1. 複数の福祉事業者・行政で、病院での説明会を行う。	ブロック調整会議参加病院5か所のうち、4か所から開催希望があり、現在2か所において地域移行説明会を実施済みである。
2. 取り組み事例について、ブロック調整会議内で共有し、事例検討を行う。	既に地域移行支援が終了したケースについてブロック調整会議参加メンバーおよび、相談支援事業者間で共有を行った。事例検討については10月4日に実施。
3. 一般相談支援事業所が地域移行支援について改めて制度を理解する場を設ける。	平成30年7月に、一般相談支援事業所および特定相談支援事業所向けに制度説明会を開催した。

2 圏域の取組における強みと課題

【特徴(強み)】

- ①精神科病院自体が4か所存在し、かつ他市の病院とも連携がとれている。
- ②地域移行支援に取り組んでいる病院が複数ある。
- ③一般相談支援事業所が障害者基幹相談支援センターに相談できる機会(自立支援連絡協議会部会)がある。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する視点別の認識(取組)	
		行政側	医療と福祉事業者間の調整を行う。
医療機関と基幹相談支援センター・相談支援事業所との連携が希薄である。退院支援における役割分担が不明瞭であるため、病院が抱え込んでしまうことが多い。	①医療・事業所が共通の地域移行支援に対する認識をもつために、勉強会を行う。 ②事業所が病院へ顔を出す機会を設け、退院支援の相談をしやすい関係を築く。	医療側	院内でも知識量に差があるため勉強会を行っている。
		事業者側	医療と福祉の支援方針のすり合わせが必要。
		関係機関・住民等	—
		行政側	一般相談支援事業所からの相談に対応する。
一般相談支援事業所のスキルアップと、障害者基幹相談支援センターの一般相談支援事業所に対するフォロー体制づくり	保健・医療・福祉関係者により、地域支援事業所を対象とした人材育成のための研修を実施する。	医療側	福祉事業者が支援できる範囲を知りたい。
		事業者側	対象者の把握が困難
		関係機関・住民等	—
		行政側	一般相談支援事業所からの相談に対応する。

課題解決の達成度を測る指標	指標の設定理由	現状値 (第1回会議時)	現状値 (今回)	目標値 (H30)
①地域移行支援決定者数の把握	地域移行支援制度の利用者数の把握	—	5件	8件/年
②地域移行に関する説明会の開催	病院・事業所が共通認識をもつことができる	0回/年	2回	3回/年
③地域支援事業者向けの研修会	人材育成のため	0回/年	1回	1回/年

※指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。

3 病院（医療機関）との連携状況

- 病院での地域移行支援説明会打ち合わせのため、病院の相談員と保健センター、基幹支援センターが顔を合わせて、小グループで話し合う機会を設けている。その際に、病院が抱える課題や地域課題についてざくばらんに話し合うことができている。
- 病院での説明会后に、退院支援や地域移行についてのアンケートをとることで、多職種の見解やニーズを聞き取っている。

4 現時点での課題・悩み

【課題・悩み】

- 相談支援事業所向け研修会、院内説明会で挙がってきた意見に対し、具体的な対応策を講じる必要がある。
- 病院全体への地域移行・地域包括の意識の啓発。
- 地域における地域移行支援を担う人材が不足している。
相談支援事業所全体に、地域移行支援制度は負担が大きい制度と認識されており、特に未経験の事業所が取り組む場合のハードルが高い。

【他自治体への質問】

- 保健・医療・福祉の協議の場における、議題についての今後の見通し。
- 医療機関からの出席者の職種。

1 平成30年度の達成目標と現時点での進捗状況

平成30年度の達成目標	現時点での進捗状況
1. 医療機関の職員に対し、地域移行支援の制度理解を促す。	ブロック内の全4つの精神科病院で説明会や勉強会を実施済み。会には医師やPSW、看護師など多職種の出席があった。
2. 地域の支援者向けに地域移行支援の普及啓発活動を行う。	一般相談支援事業所による実践報告会を11月に実施予定。対象はブロック内の医療機関、保健所支所、障害者基幹相談支援センター、指定一般・特定相談支援事業所。
3. 精神障害者ピアサポーターを養成する。	ブロック内でピアサポーターの登録人数は3名。市全体でピアサポーター養成研修を実施予定であり、今年度中に10名の登録を目指す。

2 北ブロックの取組における強みと課題

【特徴(強み)】

- ①地域移行支援を先進的に取り組んでいる区がある。
- ②精神科病院と障害者基幹相談支援センターが同法人であるため、連携がとりやすい。
- ③実践には至っていないが、精神科病院が地域移行支援の利用について前向きな姿勢である。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する視点別の認識(取組)			
		行政側	医療側	事業者側	
先進的な取り組みを、ブロック内においてどのように均てん化を図るか。	区ごとの社会資源や地域の特性を支援者が把握し、先進的な取り組みをしている区をモデルに、応用・実践する。	医療機関や事業者の連絡調整	対象者の抽出	支援者の人材育成	
		関係機関・住民等	インフォーマルなフォロー		
		行政側	ピアサポート事業の周知	ピアサポーターの積極的な受け入れ	ピアサポーターの積極的な登録
		医療側		ピアサポーターの候補者を選出	
精神障害者ピアサポーターの登録人数が少ない。	長期入院患者が退院後の生活を想定しやすいよう、実際に地域で暮らしている当事者の関係機関へピアサポート事業の周知を行う。	ピアサポート事業の周知	ピアサポーターの積極的な受け入れ	ピアサポーターの積極的な登録	
		関係機関・住民等	ピアサポーターの候補者を選出		
		行政側	ピアサポート事業の周知	ピアサポーターの積極的な受け入れ	ピアサポーターの積極的な登録
		医療側		ピアサポーターの候補者を選出	
課題解決の達成度を測る指標	指標の設定理由		現状値	現状値(今回)	目標値(H30)
①病院のスタッフ向けの説明会	対象者の退院意欲の向上を狙う。		0回/年	4回/年	4回/年
②ブロックで話し合える場の設置	保健・医療・福祉関係者が同じテーブルで問題や課題を共有できるようにする。		0回/年	1回/年	4回/年
③ピアサポーターの登録人数	対象者のニーズに合わせたピアサポーターの充実を図る。		3人/ブロック	3人/ブロック	10人/ブロック

3 病院（医療機関）との連携状況

- ・ 病院職員の中で地域移行支援の制度を知らない職員が多いと聞いたため、説明会を実施。
- ・ 退院意欲のない患者への動機づけ支援を希望しているので、患者が退院後のイメージをつかみやすくなるような患者向けのチラシを保健・医療・福祉の関係者で作成中。
- ・ 実際に地域移行支援を利用したケースの共有をし、地域移行支援利用対象者の参考にしてもらう。

4 現時点での課題・悩み

- 退院を拒否する家族への説得。
- 患者が希望する退院先と家族が希望する退院先が異なる場合の仲介。
- ピアサポーターの養成。
- 退院後に集団生活に馴染めない患者への支援。
- 障害児・者相談支援事業補助金交付制度の改定。

(他自治体への質問)

- 一般相談支援事業所の普及啓発活動。
- 地域定着支援の実施の有無。
- 地域移行支援でかかわる際の保健所の主体的な役割。